

PRESS RELEASE

報道関係者各位

2023年6月26日
Kanda & Oliveira

坂本夏子の4年ぶりとなる個展が7月1日（土）より 西船橋の Kanda & Oliveira で開催されます



左より《Tiles | Signals, occurrence process 001》(2023), 《Tiles | Signals, quantum painting 001》(2021),
《Tiles | Signals, unexpected rhythms 001》(2022-2023)

このたび Kanda & Oliveira では、坂本夏子の個展「Tiles | Signals — unexpected dimensions」を開催いたします。坂本にとって4年ぶりの個展となる本展では、油彩の大作から小品まで、そしてドローイングや立体など、あわせて100点ほどの新作で構成された個展となります。

坂本夏子「Tiles | Signals — unexpected dimensions」展覧会概要

- 展覧会名：「Tiles | Signals — unexpected dimensions」
- 会期：7月1日（土）から8月5日（土）
- プレス向けプレビュー：30日（金）*プレビュー日は11時から開廊しております
- 開廊時間：13時から19時 *展覧会会期中の火曜日から土曜日
- 会場住所：千葉県船橋市西船1丁目1番16-2号
- 展覧会ウェブサイト：

<https://www.kandaoliveira.com/ja/exhibitions/14-natsuko-sakamoto-tiles-signals-unexpected-dimensions/>

Kanda & Oliveira

是非、貴社・貴誌にてご紹介のほどお願い申し上げます。

掲載用写真の貸出などご質問がございましたら下記までご連絡頂けますと幸いです。

ギャラリーへの訪問取材も歓迎いたしますので、気軽にお問い合わせください。

プレス担当：神田雄亮 yusuke@kandaoliveira.com / 090-2229-8558

Kanda & Oliveira（西船橋）では、7月1日（土）から8月5日（土）まで、坂本夏子による個展「Tiles | Signals — unexpected dimensions」を開催いたします。

坂本は、絵画を描くことによって「まだ無い世界」を追い求めてきました。

彼女の制作活動に一貫しているのは、描くことの方法論に対する強い意識です。初期から継続的に描かれてきた「タイル」は、坂本の絵画に欠かせない重要なモチーフです。さらに2019年に発表された作品では「シグナル」という新たなモチーフが登場し、それまでの坂本の絵画やその制作の方法論が大きく変わる契機となりました。従来の坂本の作品に不可欠であった人物像（少女）が姿を消し、彼女の絵画はより抽象化を遂げ、次なる展開を予感させました。

そして今回、坂本は「まだ無い世界」を描くための方法論的な実験をさらに推し進め、多様なものになっています。この個展で発表されるさまざまな大型の絵画では「タイル」と「シグナル」が掛け合わされ、これまでにない驚くべき幅のある作品群の展開が可能となっています。大作の制作の傍らで生まれた、個々に実験性の高い立体や小作品などとともに、まさに「まだ無い世界」が広がる展示となります。つねに挑戦的な制作の実験をやめない坂本の最新作の数々を是非ご覧ください。

「Tiles | Signals — unexpected dimensions」にむけて

気がつけば、17年ものあいだキャンバスに油絵具のタイルを並べていますが、わたしにとって絵を描くことは、今も不自然で不自由な行為のままです。自分の心地よさと、絵が自由であることは、まるで関係がありません。でも、絵を描くことでしか、後戻りできないこの現実をわたしは考えられない。だから、生きることは自由をもとめて描くことでもあります。わたしがそうするには、描くためのあたらしい方法がいつも必要です。

そちら（未来）でも、絵を描くことは、まだ無い世界にふれる方法ですか？最近、あなたの影をたくさん呼び込める絵画の次元はどういうものだろうと、ずっと考えています。あなたは予期しえず刻一刻とすがたを変えてしまうけれど、過去と今のあいだに因果があるのなら、今は未来の影をいくつも内包しているはずで。それらをなんらかの色やかたちで抽出することは、とらえることができない「今」の位置をはかる手がかりになるのではないかと思えてしまいます。

そして、未来の影としてあらわれるシグナルたちを、どこかに送信してみたくて。

2023年5月

坂本夏子

Kanda & Oliveira



左より《From Tiles to Signals》(2022), 《de-structuring the self (making 8 tile patterns)》(2022)



《Tiles | Signals, 6 studies (P), (J), (B), (C), (S), (D)》 (2022-2023)

また、本展に合わせて制作された冊子も7月1日よりギャラリー内にて発売いたします。新藤淳氏とのメールによる往復書簡も収められており、坂本の絵画制作の方法論の深化を理解するために必読といえます。

【作家略歴】

坂本 夏子 SAKAMOTO Natsuko

1983年熊本県生まれ。東京在住。

2012年愛知県立芸術大学大学院美術研究科博士後期課程修了。

主な個展

2008年「overflow」白土舎、愛知

2010年「BATH, R」白土舎、愛知

2012年「Still Life」ケンジタキギャラリー、東京

2013年「ARKO 2013」大原美術館、岡山

2014年「坂本夏子の世界展」ARATANIURANO、東京

2016年「画家の網膜」ARATANIURANO、東京

2019年「迷いの尺度－シグナルたちの星屑に輪郭をさがして」ANOMALY、東京

「迷いの尺度、スピンオフ」NADiff a/p/a/r/t、東京

主なグループ展

2010年「絵画の庭 ゼロ年代日本の地平から」国立国際美術館、大阪

「VOCA展 2010」上野の森美術館、東京

2012年「魔術／美術－幻視の技術と内なる異界－」愛知県美術館、愛知

「ポジション 2012」名古屋市美術館、名古屋

2014年「オオハラ・コンテンポラリー・アット・ムサビ」武蔵野美術大学美術館、東京

「マインドフルネス！ 高橋コレクション展 決定版 2014」名古屋市美術館、名古屋

2016年「はじまり、美の饗宴展－すばらしき大原美術館コレクション」国立新美術館、東京

2017年「高橋コレクションの宇宙」熊本市現代美術館、熊本

「恋せよ乙女！ パープルーム大学と梅津庸一の構想画」ワタリウム美術館、東京

2019年「愛知県美術館リニューアル・オープン記念 全館コレクション企画 アイチアートクロニクル 1919-2019」愛知県美術館、愛知

2022年「G3-Vol.146 熊本市現代美術館開館20周年記念 Our Attitudes」熊本市現代美術館ギャラリーⅢ・井手宣通記念ギャラリー、熊本

主な所蔵先

愛知県美術館（愛知）

愛知県立芸術大学（愛知）

大原美術館（岡山）

熊本市現代美術館（熊本）

国立国際美術館（大阪）

豊田市美術館（愛知）

名古屋市美術館（愛知）

第一生命保険株式会社

高橋龍太郎コレクション